

20th
Anniversary

平成 27 年 行方市成人式

祝 成人

大人としての自覚と責任を胸に、新たな一步を踏み出す

1月11日（日）、行方市文化会館で成人式が開催されました。色鮮やかな振袖やスーツ、羽織袴に身を包んだ新成人の皆さんは、家族や恩師への感謝と新たな決意を胸に、大人の仲間入りを果たしました。成人式の運営は、新成人で構成する実行委員会が中心となって行いました。

第1部の式典では、鈴木市長が、「目まぐるしいスピードで社会は確実に変化し続ける昨今、皆さんを取り巻く環境は、決して楽観的なものではありません。経済、社会が混迷を深める時代の中であっても、豊かな社会を築いていくのは、皆さんの若い力です。問題があると感じるなら、それを解決していくのは皆さん自身です」と激励しました。

その後、来賓・恩師祝辞、成人者代表発表などが行われ、第2部のアトラクションとして新成人が中学時代の恩師に近況などを質問しました。

新成人の皆さんが行方市に愛着と誇りを持って、今後ますます活躍されることを期待いたします。

成人式当日には、中学校単位で写真撮影が行われました。撮影した記念写真は、各公民館（麻生・北浦・玉造）にて4月1日から配布予定です（受け取りは代理の方でも構いません）。



実行委員会 ※敬称略

八木奨 金田英朗 宮本千晴 畑木惇 藤ヶ崎美樹 羽生友子 宮内香菜
丸木睦美 長峰沙也加 荻礼希 根本俊平 坂本絢美 椎木香奈 川島葵

今年の新成人が生まれた年

1994⇒1995

- | | | | |
|-----|-----------------------------------|------|------------------|
| 5 月 | 巨人の槇原寛己投手完全試合達成 | 10 月 | 大江健三郎氏ノーベル文学賞受賞 |
| 7 月 | 日本人初の女性宇宙飛行士向井千秋氏を乗せたスペースシャトル打ち上げ | 12 月 | 平安遷都から 1200 年 |
| 8 月 | 福徳銀行 5 億円強奪事件 | 1 月 | 阪神・淡路大震災発生 |
| 9 月 | 関西国際空港開港 | 3 月 | オウム真理教地下鉄サリン事件発生 |



今年^あの行方市の新成人は 386 名。そのうち式典には 318 名が出席しました。艶やかな振袖姿の新成人達。懐かしい同級生との再会。写真を撮り合ったり、談笑したりと 20 歳の喜びを分かち合いました。式典後のアトラクションでは恩師の先生への質問タイムで盛り上がりました。希望者を対象として、麻生藩家老屋敷記念館で写真撮影会が行われました。

新成人に聞きました!

二十歳の抱負

それぞれの熱い想いを胸に、夢に向かって歩みはじめた新成人たちに
「二十歳の抱負」を聞きました。



成人者代表発表 - 成人を迎えての抱負 -



畑木 惇さん

本日はこのように素晴らしい成人式を開いてくださり、誠にありがとうございます。今日、こうして無事に成人式を迎えることができたのも、20年間育ててくれた両親を始め、周りの方々の支えがあったからだと思います。これから、少しずつ私たちが支える側になっていくことができると思います。

大きな節目を迎え、これまで以上に努力する必要があります。二十歳になり強く思うことは、大人としての責任感、そして権利を得ることができるということです。

私は、現在大学に通っています。大学に通っていると、自分任せになることが多く、責任感が重要だと実感しています。中学の頃からイベントの主催者として運営したり、グループのリーダーになったりする場面がとて多く、現在も様々な活動をしています。活動をする度に思うのが、責任というものがどれだけ大切であるかということです。今の私はまだまだ

未熟であり、大人としての責任感を持っていません。しかし、私達も将来は仕事をする立場になります。今の自分に、より一層磨きをかけたいと思います。

また、私達は様々な権利を得ることができます。親の同意無しでの契約や飲酒喫煙、また選挙権も持つようになります。このような権利を与えられるのは心身ともに成熟し、責任能力がある成人だからです。私は権利を与えられて恥ずかしくない分別のある人間になりたいです。

20年間生きてきた時の流れはとても速く感じます。今周りを見渡してみると、学問にひたすら打ち込む人もいれば、仕事に明け暮れている人などたくさんの方がいます。やりたいことや目標があるならば、それを達成するために、今自分のすべきことをしないといけないと思います。やりたいことをただやるのではなく、

今やらなければならぬことをやるのも大切だと感じるようになりました。成人となった私達には、今まで以上の困難が待ち構えています。しかし、それを今までの経験、仲間の支えなどで乗り越え、一步一步確実に進んでいくことが、これから生きていくことだと思っています。十人十色という言葉のように、自分のカラーが色あせることのないよう、精進していきたいと思います。



長峰 沙也加さん

「二十歳」みなさんはこの歳になって何を思うのでしょうか。ある程度自由が手に入ったこと、それに比例して責任という重い言葉が付きまとうようになったこと、嬉しく思う反面厳しい社会へと足を踏み込んだ歳でもあります。

私はいま、小学校の先生になるために大学に通い、必死になって勉強しているところです。そんな私が二十歳になつて思ったことというのはやはり、「二十歳」という歳に対する理想と現実のギャップと両親に対する感謝の気持ちです。まず、「二十歳」といえば世間に大人として認められ、おおよそのことは自分の意志で動くことができる自立の歳だと思っていました。しかし私は両親に学費を払ってもらって夢を追いかけているという状態です。初めての一人暮らしも保険や賃貸等わからないことが多くて親を頼ることは日常茶飯事。憧れていた「二十歳」は思っていたよりも子どもだと痛感しています。加

えて両親に対する感謝の気持ちでいっぱい입니다。そんな両親に恩返しができるとしたら、教員になる夢を叶えることだと思っています。現在私は塾でアルバイトをして多くの小学生、またその保護者の方、そして教育に携わる多くの講師の方々と関わって多くのことを学んでいます。たまには小学生を叱ったり、保護者の方々から鋭い指摘をいただいたり、講師の方々や社長から激励のお言葉を受けたりと、教育に関わっていく上で必要なことをたくさん経験させていただいています。電話対応や社会での上下関係、正しい敬語の使い方、大人としてのマナーなど、多くのことを教えていただきました。教職に就くということは、人のお手本になるということです。そのために大切なことをたくさん吸収して自分の夢に反映していきたいと考えています。

この「二十歳」という節目に、ここでこうして自分の想いをお話することができる機会をくださった生涯学習課の皆さまや、私たちをここまで支えてくださった多くの皆さまに感謝して、これから精一杯精進してまいります。

